



1. 会議の概要

今年度の NSPE 総会 (PECON19) の概要と JSPE からの参加者は以下の通り。

日時 : 2019 年 7 月 17 (水) ~ 21 日 (日)

場所 : 米国ミズーリ州カンザスシティ市 マリオットダウンタウンホテル

参加者 : 317 名 (NSPE 公式アプリの参加者リストより)

JSPE 参加者: (理事) 森山亮、西久保東功



エイトキン前会長 (中央) マティーニ新会長 (右)*



HoD の様子*



HoD での森山会長スピーチ*



広報活動 (左: 森山、中央: ロバーツ前々会長、右: 西久保)

*IMAGE COURTESY OF NSPE (<https://www.flickr.com/photos/nspe/albums>)

2. 温かな街カンザスシティ

カンザスシティ(Kansas City)は、アメリカ合衆国のほぼ中央のミズーリ州西部に位置する都市。市域はジャクソン郡を中心に4郡にまたがる。市はカンザス川がミズーリ川に合流する地点を中心に広がっている。人口は459,787人(2010年国勢調査)でミズーリ州では最大、中西部では第6位、全米でも第37位の規模である。ミズーリ・カンザス両州の15郡にまたがるカンザスシティ都市圏は2,035,334人の人口を抱えている。気象データ上は温度・湿度ともに日本と同程度(夏の最高気温が約40℃)であるが、体感としては日本より少しきつい程度。カンザスシティはFountain cityとも呼ばれるように、市内には200以上の噴水が設置されている。最近では、ダウンタウンの再開発が進められており、音楽やスポーツなどのエンターテインメント事業が活性化している。

カンザスシティには連邦準備銀行も置かれており、米国通貨の変遷を知ることができる。中でも目を引いたのが、\$1硬貨は大統領毎に新しいデザインが発行されており、¢25は州ごとに違うデザインが発行されていること。写真はJSPE会員にとって州登録でなじみのある3州で発行された硬貨。貨幣はどれも同じという先入観から普段、注視することはなかったが、このような身近なことからアメリカにおける州の独自性を感じた。(西久保)

カンザスシティのダウンタウンは国際空港から南に路線バスで50分程度(20km程度)走ったところであり、ダウンタウンの中心部にはPECONの会場であるホテルマリオットやコンベンションセンターがある。中心部では南北に3kmの距離のStreet Carと呼ばれる路面電車が10分おきぐらいで走っており、無料で乗車できる。路面電車の南側終点にはユニオン駅、第一次世界大戦博物館やショッピングモールが並ぶ。滞在中には気温が100F(38℃)を超えた時もあり、非常に暑く、屋外を散歩している人はほとんどいなかった。(森山)



カンザスシティ市街地の景観



市内噴水の例



JSPE と関係が深い州の 25 硬貨



ホテル近辺の街並み



Street Car



ユニオン駅

3. NSPE 総会の概説

PECON19 は、直近のラスベガス総会と同様、前日にツアーとレセプション、2 日のセミナーとネットワーキング、最終日が全州総会 (House of Delegates, 以下 HoD) という構成であった(日程は以下の表参照)。なお、7/21 はアメリカを東西南北と中央の 5 ブロックに分割したブロック代表の意見交換会であり、帰路の日程都合から参加していない(参加することは可能)。

ウェルカムレセプションは、7/17 の見学会の終了後に行われた。エイトキン会長、前会長のトム・ロバーツ、コーディ・ベアヘーレン、ティム・オースティン氏らと再会した。

セミナーについては、Opening/general/closing の一般セッションを含め以下のように計 27 コマ開催された。講演の分類は、便宜上、技術の関係が深いものを Education、マネージメントに関するものを Leadership としている。

2019 年カンザスシティ総会の日程概要

Time	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21		
8:30		Opening session	General session	Leadership Session	House of Delegates Regional meeting		
9:00							
10:00							
11:00	Seminar - 2	Seminar – 6	House of Delegates (HoD) AM Session				
Noon	Ticketed tours	Luncheon general session	Celebrate engineering excellence luncheon	NSPE installation lunch			
13:30				Seminar - 3		Seminar – 7	House of Delegates (HoD) PM Session
15:00				Seminar - 4		Closing session	
16:00							
18:00	Welcome reception	Science City tour					



ウェルカムレセプションの会場雰囲気



2016-2017NSPE 会長 Kodi Verhalen

2017-2018NSPE 会長 Tom C. Roberts 夫妻と

カンザシティ総会における講演の分類とタイトル

Sessions	Presentation titles
General	<ul style="list-style-type: none"> •(Opening Session) Engineering 2025 Outlook: A Panel Discussion •Learning Lunch: Why Diversity Matters from an Engineer’s Perspective •How to Create an Intentional Culture •(Closing session) Refuting the Bias Against Qualifications
Education	<ul style="list-style-type: none"> •Robotic Remote Sensing: Capturing Reality & Delivering Solutions •Ensuring Sustainability Through Strategic Planning •Advanced Surveying Technologies: 3D Scanning, BIM, and Drones •Making the Most Out of Infrastructure Dollars •Engineering Ethics and the Law •Ghost in the Machine: A Workshop on Engineering and Emerging Technology •Dam Issues Causes by Industrial Exemptions •Replacement of the Gateway Arch Tram’s MG Sets •VR, BIM, Block Chain… What Do They Mean for Your Construction Project? •Rainfall Runoff Modeling for Small Watersheds •Smart Cities and Their Effect on Engineers
Governance	<ul style="list-style-type: none"> •Order of the Engineer •Celebrate Engineering Excellence Luncheon
Leadership	<ul style="list-style-type: none"> •How to Be an Effective Witness: Discovery, Depositions & Trials •Passing Down Institutional Knowledge: Coaching, Mentoring, & Storytelling •Leading Project Teams: Emerging Technologies and Smart Design •How to Lead Without Authority (Even When You’re Boss) •Managing Project Risk: It’s Not What You Think •Uncharted Territory of Alternative Project Delivery: An Owner’s Perspective •How Not to Fail as a Leader •Repositioning in an Era of Accelerating Change: Purpose, Strategy, & Execution •A Comparison of Collaborative Delivery Methods •Strong Risk Management Begins with Disciplined Execution and Operational excellence

4. 一般セッション概要

4-1. Opening/closing session

2018-19 の NSPE 会長であるエイトキン氏の挨拶から開始し、その後、事務局長であるマーク・ゴードン氏から NSPE Strategic Plan についての説明が行われた。

- (1) Driving growth
- (2) Sharing public policy
- (3) Education for the future
- (4) Promoting diversity & tomorrow’s engineers
- (5) Governance evaluation

これら5項目は、いずれも前ロバーツ会長時代に設定した以下の活動方針の戦略に落とし込んだものである(詳細は NSPE ホームページの strategic plan 参照)。なお、この内容は6月の JSPE 総会でエイトキン会長が説明した内容であり、是非会員の方々も一読いただきたい。

(<https://www.jspe.org/member/wp-content/uploads/sites/2/2019/07/2019-JSPE-NSPE-Presentation.pdf> 参照)

- NSPE Champions the PE License
- NSPE Stands as the Ethical Guide to the Profession
- NSPE Powers Professional Advancement
- NSPE Unites the PE Community

その後、Engineering 2025 Outlook Panel として、ベアヘーレン 2016-17 NSPE 会長の司会進行により、米国のトップエンジニアリング企業 5 社 (JE Dunn Construction, Kansas City Public development, Black & Veatch, Burns & McDonnell, HNTB) の CEO によるパネルディスカッションが行われた。PE の価値とリーダーシップの関係、公共に対する技術者倫理の重要性、技術者の育成方法などをテーマにした議論が行われた。今回の PECON で良く話された Diversity の重要性 (昼食セミナーでも扱われた) についても述べられており、いずれも今後の PE として活動するにあたり年頭に置く必要のある内容であった。

Closing session では、エイトキン前会長からマティーニ新会長へと引継ぎが行われ、併せて 2019-20 年のボードメンバー紹介がなされた。



パネルディカッションの様子*



2019-20 NSPE Directors*

4-2. Order of engineers and awards

表彰として例年通り Order of engineer および NSPE award の 2 種類が実施された。リングの授与条件の詳細は、2016 年ダラス総会の参加報告に示したように、日本の大学卒業者であれば NCEES の CE をパスすることである。JSPE 会員が NSPE 総会に参加するためには時間と費用の面で大きなハードルがあるが、一人でも多くの方にリングを授与いただきたいと思います。エンジニアリングのホームページを確認すると、リングのセレモニー自体は JSPE でも開催可能なようである。宗教的な配慮、開催する時期 (JSPE 年次総会の会員表彰の一環など)、担当理事の負担も含め課題も多いが、今後の検討項目としたい。

(個人的には、JSPE 総会に招待している NSPE 会長からリングを授与いただければありがたいが、多忙な日程のため実現は難しいと考えている) <http://www.order-of-the-engineer.org>



ロバーツ前々会長によるエンジニアリング授与式*

5. その他セミナーについての所感

今回は、IoT、プロジェクトマネジメントについての Education セッションを中心に参加した。以下に興味深いテーマを示す。

■Ghost in the Machine: A Workshop on Engineering and Emerging Technology

カリフォルニア州の若手である Lin Austin 氏が IoT を用いた画像認識を機械学習で実現する方法についてワークショップ形式で講演。インターネット上の無数の写真を画素数 16x16 ~ 4k まで増加して各条件での特徴量を抽出し、そのパターンが近いものと推測することで、猫、犬、人などを認識するというもの。テーマ事態は真新しいものではないが、話題性のある内容。ワークショップという形式でも発表することが可能ということが分かり、今後の JSPE として発表を検討する際の参考となった。



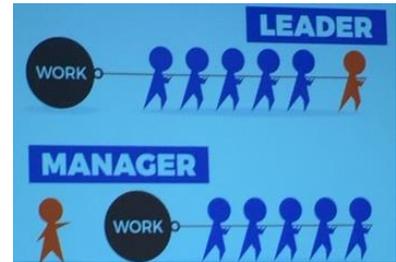
■Robotic Remote Sensing: Capturing Reality & Delivering Solutions

ドローンの活用により、非接触で構造物内外のデータを取得し、メンテナンスに役立てている例を紹介。ドローンと耳にすると、プロペラのついた飛翔体を目に浮かべることが多いが、ここでは遠隔自動操縦で動く計測器と定義されており、河川の流量を測定する船型、パイプ内を走る自動車型、等も紹介。日本のドローンは構造物の外観を映像で確認する用途が多いが、自動計測の分野では大きなポテンシャルを秘めているとのことであった。



■How Not to Fail as a Leader

リーダーシップと言葉にすると一言になるが、従来のマネジメントと同じ感覚でいると失敗するというため注意が必要と若手向けの説明がなされた。従来のマネージャは、管理・指揮側であり実際に work を行うことはないが、リーダーはメンバーと共に率先して work を担う必要があるとのこと。ある意味当然の内容であるが、あえて発表テーマになるということは、米国でもリーダーとマネージャを上手く使い分けできていない現状があると感じられた。



■Ensuring Sustainability through Strategic Planning

Marty Norton, PE が USDA (米国農務省) の講師が地方の小規模水処理設備プロジェクトにおける持続可能性の評価について解説した。持続可能性評価の要素として、Financial (財務)、Managerial (管理)、Technical (Engineering)、Environmental (環境) を挙げ、主に財務の状況を事例とともに紹介した。



■Engineering Ethics & the Law

Chris Corbitt, PE より倫理と道徳 (Ethics and Morals) について様々なアンケート結果を元に解説がなされた。1000 人の米国人 (自主的な回答) を対象に行われた 1985 年のサーベイでは、聖職者 (61%) > 医者 (48%) > エンジニア (45%) > 政治家 (16%) > 車のセールスマン (6%) の順で倫理と道徳が高いと考えられているという結果が得られた (括弧内は倫理と道徳が高いもしくは非常に高いという回答の割合)。1990 年には抽出された 1000 人の回答者を対象に同様のサーベイが行われ、エンジニア > 公認会計士 > 医者 > 弁護士 > 歯科医という結果になった。さらに、様々なエンジニアが直面する契約と不法行為などについてケーススタディが解説され、これらの問題に直面した場合に自問する以下の項目が挙げられた。

- ・その事項に対する責任があるのか？
- ・自身の決定を守ることができるのか？
- ・他のエンジニアや担当にやってもらうことができないか？
- ・同僚や他のエンジニアに相談できないか？
- ・エンジニアボード (NSPE?) に相談できないか？

■Learning Lunch: Why Diversity Matters from an Engineer's Perspective

セミナー初日、昼食を取りながらのセッションは“多様性”に関する議題だった。National Society of Black Engineers (NSBE) の事務局長である Karl W Reid 氏がエンジニアの観点における多様性の重要性について説明した。

NSBE は 1975 年に学生が中心となって設立した組織であり、現在アクティブ会員は 24,000 名以上である。工学系学士における女性とマイノリティの割合はそれぞれ 4.51% (1977 年)→20.08% (2015 年)、および 5.66% (1977 年)→14.14% (2015 年)と増加傾向にあるものの、近年では伸び悩んでいる。

米国トップ企業は多様性が高いことや、多様性が革新をもたらすことを訴えていた。

もう一つ印象的だったフレーズは、多様性 (Diversity) では不十分であるということだった。私はこれまでに意識したことは無いが、Reid 氏は Dr. Robert Sellers の Diversity, Equity (公平性)、Inclusion (包含) の定義 (パーティーへの招待の例え) を引き合いに出した。

- Diversity: パーティーに招待されるようなもの
- Equity: みんながパーティーで踊るようなもの
- Inclusion: パーティーの楽曲プレイリストにみんなが貢献するようなもの

人種のるつぼと言われる米国においてもまだまだ多様性が求められているという状況は大変興味深く、NSPE の総会に海外ゲストとして呼ばれている JSPE も何らかの貢献ができるのではないかと期待が感じられた講演であった。

その他にも技術・知見の継承に関する講演では、聴講者を巻き込んで、技術の継承方法を話し合う取り組みがなされたり、プロジェクトリスクマネジメントに関する講演も 2 件あった。

6. ツアー概要

例年、ネットワーキングの一環として開催都市の技術施設の見学ツアーがされている。今年度は、7/17 に市内案内、浄水施設、醸造所、交通管理施設の 4 ツアーが、7/18 に博物館の見学会が開催された。

• KC Scout Tour (西久保)

カンザスシティの交通情報を監視・管理している KC Scout 社の見学ツアーでは、市街地の交通量を IoT で管理する方法について説明を受けた。市内に設置した 300 台強の信号と携帯電話の位置情報から車両の交通状態と流通量を収集し、混雑や事故の状況によって信号の go/stop を制御することで事故の防止や、渋滞や事故状況を道路上のディスプレイに表示することでドライバーへの伝達し、市内の交通量の平準化を図っている。日本の高速道路での渋滞情報表示の次の技術といえるだけでなく、IoT で何ができるかという一つの実例といえる (詳細は <http://www.kcscout.net/> 参照)。



©2019 NSPE



KC Scout 社での市内交通量の監視



市内の交通量測定用に設置された信号機

・Wolcott Water Treatment Plant Tour (森山)

PECON の会場であるカンザスシティダウタウンから車で約 30 分北西に移動した位置にある水処理プラント(Wolcott Water Treatment Plant)を見学した。

運営している会社は Water One という非営利(準公共)の水道事業者である。図 1 に示す通り、カンザス州側のカンザスシティに飲料水 (potable water) を提供しており、サービスエリアは 272 平方マイル(700km²)、顧客は約 45 万人で、2018 年には 224 億ガロン(850 億 L)の水を提供した(2018 YEAR IN REVIEW)。

Water One は Wolcott と Hansen の 2 か所の水処理プラントを有しており、Wolcott から 15 マイル離れたコントロールルームで、遠隔監視・操作をしている。

見学会では沈殿槽、メンブレンフィルター、ポンプ施設、水撃防止タンクなど一連の設備を紹介いただいた。参加者からは水の品質、プラントのメンテナンスなどについて活発な質疑がなされた。



Water One のサービスエリア



Water One の水処理プラントと管理事務所

出典 : Water One, <https://www.waterone.org/home>

• Science City Tour (全員)

Science City 博物館の見学ツアーでは、科学技術と日常生活との関係を体感することができた。展示分野も、気象、地質、電気、機械、物理、等多岐に亘る。子供だけでなく大人も体験して楽しめるというのは欧米の博物館に共通している内容で、科学への興味・関心を高めるという意味でも日本の博物館には不足している点といえる。小学生から大学生までの幅広い年代の学生がボランティア説明員をしていたのも特徴の一つで、これも啓蒙活動の成果といえる。



学生ボランティアによる展示説明*



砂の高さにより等高線を色で表示する展示*

7. HoD topics

House of Delegates (以下 HoD) 前に Leadership session が開催され、エイトキン前会長等から NSPE の会員価値を高めるための Strategic Plan の 5 テーマについて説明が行われた。

- (1) Driving growth
- (2) Sharing public policy
- (3) Education for the future
- (4) Promoting diversity & tomorrow's engineers
- (5) Governance evaluation

この 5 テーマに対して以下の 3 topics について参加者全員で議論を行った。

- Where is the value at the local level?
- What's most likely to drive membership growth for you?
- What is it going to take achieve that value?

活発な議論が行われた中で特に注目を浴びたのは、membership growth のために必要な新入会員のニーズを把握しきれていないことが挙げられ、中でも”We don't know what students want”という意見が多かったのが印象的であった。JSPE でも会員数を増加するために学生会員への紹介活動を進めているが、将来を考えると現在の会員のニーズだけでなく、将来の会員候補である学生が何を求めているか把握する必要がある。NSPE での議論では、この答えとして”Maybe, young engineers are interested in leadership”という方向性を得ている。企業でのプロジェクト経験を題材とする JSPE の鬼金セミナーも同じ方向性であり、学生にも魅力的なはずである。今後、大学での JSPE 紹介の際に盛り込み、会員増加の一助としたい。

HoD 本会議では以下の3件の議題について、採決が行われた。

- (1) 2019-20年度のVice presidentとTreasure担当役員の改選
- (2) NSPE会員区分の名称変更

議案(1)については、2019-20のVice presidentとしてRich Guerra氏、TreasureとしてSusan Sprague氏が選任された。

恒例となったInternational Guests RemarksではMartini新会長に紹介され、森山が以下の5分間スピーチを行った。要約すると、PECONへの招待と運営へのお礼、先月来日いただいたエイトキン会長へのお礼を述べ、JSPEの紹介と今後もNSPEとの関係強化を望んでいることを伝えた。

<HoDでのJSPEスピーチ全文>

Hello everyone. Thank you, President Martini, and NSPE for inviting us. I am very honorable that I make a speech at this House of Delegates. And I would like to express my gratitude to Missouri and Kansas society for your hearty hospitality in the PE Conference. My heartiest congratulations for holding PE Conference



in Kansas City which is "Heart of America". On the beginning of last month, we were honored to invite President Aitken in our 19th annual meeting in Tokyo. In the annual meeting, we had fruitful discussion. Thank you, Mr. Aitken, for sharing your time in very busy month.

JSPE is a non-profit and non-governmental organization established in 2000 and is tied to NSPE with the affiliation agreement in 2001. Approximately 350 JSPE members are licensed or are seeking to be licensed in US as Japanese engineers. Since the US PE exam was made open to Japanese engineers back in 1996 at Yokosuka base, estimated around thousand engineers have been registered. According to the data provided by Japan PE/FE Examiners Council, about 200 people take FE exam and about 100 people take PE exam yearly in recent years. Japan has its own engineer qualification system, and there are not many benefits for PE holder working in Japan. What is the motivation for these people? We surveyed for JSPE members last year. There are many opinions to become an engineer working on a global basis. The acquisition of the PE license is an opportunity to be active globally for Japanese engineers. We, JSPE also think that the value of PE licensure system is balance of engineer's important 4Es, those are the education, exam, experience, Mr. Golden told us yesterday, and ethics. In recent years, it has become necessary to respond to new technologies such as autonomous vehicles, Internet of things, artificial intelligent and so on. New infrastructure construction is also in progress for the Tokyo

2020 Olympics games. With this background in mind, we believe that engineers 4Es is still and more important. We have announced JSPE’s action policy in 2019 as “Build Community and Connect with Public”. Next year is 20th anniversary of the founding of JSPE and next year again is 20th anniversary of making agreement with NSPE. We have learned much from NSPE in the past. We hope to give back our knowledge and experience to NSPE, and thus strengthen the partnership. Thank you.

本会議の議案 (2) は、NSPE の Bylaw 9 に記載されている会員区分の定義と名称についての小変更である。NSPE の会員システムは、2017 年のアトランタ総会において NSPE と州を合わせた統一会費を 299 USD とする大きな変更が承認されている。今回の変更は、①今後の会員増加を進めるにあたり学生会員の区分を明確にすることと、②At large では定義が明確ではなかったことから米国以外の海外居住会員を Extranational と明確にすることを目的としていると考える。

なお、7/21 の HoD regional meeting では、Extranational member (計 75 名の会員分布は以下の表参照) の会費を減額するべきかどうかの議論が行われている。この背景には、米国非居住の国際会員にとって従来は NSPE 分のみの 150 USD であった年会費が統一会費の適用により 299 USD に増加したことと、カナダ在住の会員と JSPE から個々が NSPE 会員を継続する懸念点となると伝えたことがある。

米国外居住の Extranational member の内訳

Australia – 2	Indonesia – 1	South Korea – 3
Bahrain – 1	Italy -1	Sri Lanka – 1
Brazil – 1	Japan – 25	UAE – 1
Canada – 20	Kuwait – 3	United Kingdom – 1
Costa Rica – 1	Lebanon – 1	Uruguay – 1
Germany – 1	Mexico – 1	Vietnam -1
Hong Kong – 2	Saudi Arabia – 1	
India -3		

議事録によると、上記懸念点を受け NSPE は米国外居住会員向けの会費を 50%に減額(米国他協会と同様)する次案を提示し、各 region での議論が以下のように整理されている。

NSPE の会員区分

Membership type	Definition
Licensed member	Person holding a valid license or certificate of registration as a PE, issued under the laws of any state, territory, possession, or district of the US, or equivalent as defined under the laws of any other country, or a retired engineer who obtained and retained a valid license or certificate while in achieve practice in profession until retirement. (意訳:PEとして州登録している NSPE 会員)
Member	Person holding a valid engineer in training or engineering intern certification, issued under the laws of any state, territory, possession, or district of the US, or equivalent as defined under the laws of any other country. A member shall automatically advance to the licensed member grade as soon as eligible by licensure. (意訳:FE 試験合格やインターン中の NSPE 会員)

Graduate member	A person who has graduated with a bachelor's degree or higher from an engineering curriculum accredited by the ABET or from an engineering or pre-engineering program that leads to engineering licensure, shall be granted provisional status as a member for up to 2 years to achieve the requirements of the member grade, or from an educational program that is recognized for purpose of engineering licensure under state or territorial law. Graduate member shall not have voting privileges and shall not be allowed to hold office in NSPE. Graduate members shall become members immediately upon successfully meeting the requirement for member status. (意訳: Bachelor 以上の学位を持ち、ライセンス取得を目的と認定された engineering program に所属する NSPE 会員)
Student member	A person who is enrolled full-time in ABET accredited engineering program or an engineering or pre-engineering program that has a transfer agreement with one or more ABET accredited engineering program. from an educational program that is recognized for purpose of engineering licensure under state or territorial law. A student enroller full-time in a graduate level engineering program may choose any grade for which eligible, including student member. (意訳: 州が認定した engineering program の学生)
At-large Extranational member	A person who meet all the requirements for licensed member or member status as defined above and the person resides outside the US, its territories, possessions, or districts. (意訳: 米国に居住していないが、licensed member または member の要求基準を満足する NSPE 会員 ※NSPE 会員でもある JSPE 会員はこれに該当)
Grandfathered member	A current member who has maintained membership in NSPE, but is no longer eligible for membership due to change in membership criteria, shall be allowed to maintain their membership in good standing. If the grandfathered member's membership lapses, the grandfathered member will not be permitted to rejoin NSPE without first meeting the then-current membership requirement. (意訳: 会員資格の基準変更により、会員資格を喪失した NSPE 会員)

米国外居住会員向けの NSPE 年会費の案

category	current	new	current members
licensed member	\$299	\$149.5	57
member	\$299	\$149.5	12
graduate member	Year one: \$59.8	Year one: \$29.9	0
	Year two: \$119.6	Year two: \$59.8	
	Year three: \$179.4	Year three: \$89.7	
	Year four \$239.2	Year four: \$119.6	
	Year five: \$299	Year five: \$149.5	
student	\$0	\$0	277
retired	\$149.50	\$74.75	3
life	\$0	\$0	14

- Northeast: two states (Massachusetts and Maine) expressed explicit approval of the concept of discounted international dues with the remaining states neutral. The key issue from there discussion was the fact that international members don't get the same value as any domestic member served by a national and state organization.
- Southeast: the concept was strongly opposed by all states in this region with the exception of Virginia. The key issue identified in this region's discussion was inconsistency with the uniform domestic dues price, underscored by the lack of a similar discount for national

members in non-integrated states.

- Central: Illinois, Indiana, Michigan, Ohio, Wisconsin, and West Virginia formally voted in unanimous support for implementation of a 50% dues discount to international members, also citing the fact that international members don't get the same value from NSPE programs as domestic members.
- North Central: Strong opposition to discounts for international members due to the inconsistency with the single dues price point for domestic members. Several states expressed a preference to consider other, domestic discounts (such as a government employee discount) before considering international memberships.
- Western & Pacific: Approved of the concept of a discount for international members, with no specific commentary.

減額案に賛成した州の意見としては、米国外居住の会員は米国居住の会員よりも NSPE から受け取れるサービスが少ないため妥当というもの。一方、反対した州の意見としては、NSPE の統一会費を払っている会員と不公平になることや、行政機関などのその他の米国内会員向けの減額を優先するべきというもの。賛否両論のため regional meeting では採決は行われず、引き続き米国外在住会員向けの減額案について議論を進める、と締めくくっている。会費増額による懸念点を示した JSPE としては、減額案が承認されることを目論んでいたため残念な結果であるが、NSPE での議論の動向を引き続き確認していく。

<(参考) Regional meeting の議事録>

<https://www.nspe.org/sites/default/files/resources/documents/bod/2019July21/AgendaWeb.pdf>

<https://www.nspe.org/sites/default/files/resources/documents/bod/2019July21/Item5.1-InternationalDues-IssuePaper.pdf>

<https://www.nspe.org/sites/default/files/resources/documents/bod/2019July21/Item5.1-InternationalDues-ATTACHMENT.pdf>

<(参考) 2017 年のアトランタ総会での NSPE 会員システム改定の概要>

NSPE の年会費を従来の 150 USD から 299 USD に増額するというもの。ただし、これは従来州協会に支払っていた年会費を含めた統一会費とするもので、NSPE と州協会の両方に参加している大多数の会員の負担は変化しない。州協会の取り分は、NSPE が州をサポートする業務範囲によって変わるというもの。NSPE 会員でもある JSPE 会員にとっては、米国非居住のため居住州が受け取れる割り当てがなく(JSPE は州協会でないため不可)、サービスが変化していないのに会費が 150 USD から 299 USD と倍増している。

この統一会費の導入により、“新会員システムでは、NSPE 会員でなく各州のみの会員 State Only Membership を原則として認めない”という決議が 2018 年の総会でなされている。

8. 所感と教訓

(西久保)

今回のカンザスシティ総会で5年連続5回目の参加となりました。総会参加の目的として、ネットワークの強化、知識の裾野の拡張、また自身のモチベーションの向上を挙げてきましたが、今回の参加で連続して複数回参加する意義が見えてきました。総会に参加している州代表は任期が1~2年のため入れ替わることを認識していましたが、前回のラスベガス総会まで連続して参加していたテキサスやアラスカ州の知人が参加していないことに気付きました。1~2回の参加であれば、個人としてネットワークを構築することがメインになり、相手が入れ替わると再度関係を構築しなおす必要がありますが、複数回参加していれば引継ぎを含めて継続した関係を築くことができます。若手間のネットワークも一層充足することができ、韓国、グアム、カリフォルニアで合同イベントができないかという話も進めることができました。このネットワークをどう活かすかは今後の活動次第ですが、JSPEの活動を国内だけに留めず、米国各州との関係を深めることでJSPEの価値を高める一助になったと思います。

今回のJSPEからの参加者は理事のみの2名で、昨年4名から減ったのは残念でした。NSPE総会がお盆前の7月に開催されるため業務調整が参加ハードルの一つになっているのは理解していますが、今後、理事や一部の会員以外の方にもJSPEとして活動していただきたいと考えています。その意味では、来年のフィラデルフィア総会は8/12~16とお盆中のため有休取得の面ではハードルが下がるため、来年こそFirst timerが増えることを願っています(お盆中のためフライトとホテルの費用が新たなハードルになりそうですが)。

個人的な話としては、今回は総会参加中に体調を崩しただけでなく、事前の業務調整に手間取り、準備が十分でない状態でNSPE総会に参加することになったのが非常に残念に思っています。同じ時間と費用をかけたのであれば、より多くの経験や知識を吸収できるように一層心がけていきます。

最後に、今回もNSPE総会への参加にあたりJSPEから補助を頂いておりますが、元々はJSPEの方々の会費であり、このような機会を与えて頂いたことに対してこの場をお借りして深くお礼申し上げます。

(森山)

今年は特に会員増強についての話が多くなされていた。Bylawの修正も学生会員とPEを早い段階で交流させることを目的としており、多様性についての議論も女性やマイノリティを多く取り込んでいくことを重要視していた。

また、私としては今回3回目の参加になるが、ウェルカムレセプションやランチ、ディナーなど



で話した各州のメンバーはこれまでと比べて若い人が増えたと感じた。カリフォルニア州、オレゴン州、グアム州など特に西側 (Western Region) のメンバーと交流し、今後ウェブシステムを用いた相互イベントを実施したいとの意向を伝え、先方からも大変興味があると回答をいただいた。

9. その他、ネットワーキング活動



Professional Engineers of Oregon (PEO) 2019-2020 会長の Tom Headley 氏と



韓国技術士会メンバーと



カリフォルニア州メンバーと(右側は NSPE-California 会長の Mehdi Khalili 氏)



新 NSPE 会長 David Martini 氏と